



鎌倉市議会〒248-8686 御成町 18 番 10 号

電話 0467-23-3000(市役所代表)

※長嶋個人メール:kamakurasi@gmail.com

今回は毎年行っている予算議会での予算に対する討論の原稿を一部掲載しました。

右の QR コードブログに動画も貼ってありますので、全文ご覧いただけます。⇒⇒⇒⇒



今回掲載の
討論ブログ
2019/03/25

◆今回は「平成 31 年度鎌倉市一般会計予算」反対討論原稿をそのままお配りします！

先日、「NOと言えない議会 その代償は」財政難に陥り市民サービスを切り詰める富山県高岡市。市議会のチェック機能は働かなかったのか。とのタイトルで、NHK 選挙 web、統一地方選挙各地からの報告にレポートが掲載されていた。富山県第2の都市、高岡市ではおととし11月、40億円もの財源不足が突如明らかになり、市民サービスを切り詰める動きが相次ぐ事態になっている。

市のコミュニティーバスは廃止され利用者は片道千円以上かかるタクシーを使わなければならなくなり外出の機会が減ったそうです。市民会館は改修費が捻出できず、無期限で休館。市の49の施設の利用料金を、最大1.5倍に値上げすることも検討中だそうです。

財政難に陥った背景には、北陸新幹線開業が挙げられている。

市は、新幹線の金沢延伸までの10年間を「黄金の10年」と銘打ち、関連の大型公共事業などを次々に押し進めた。新幹線の新駅に加えて、在来線の高岡駅もおよそ150億円を投じて都心にも負けない施設が作られた。市の借金は、新幹線が延伸した平成26年度には1,100億円を超えた。その一方で基金は、財源の穴埋めのため、昨年度には底を尽きかけたようだ。

高岡市は人口17万2千人、平成31年度一般会計当初予算656億円、この数字だけ見ても人ごととは思えないお話である。では、現状の鎌倉市政に目を転じたらどうであろうか？

未来の予測や財政状況を見無視して、高岡市の「黄金の10年」と同様に、新しい元号の年に、鎌倉市の「黄金の10年」のスタートラインに立とうとしている状況であると考えます。

▼ここで、松尾市政における現状の問題、課題をあげておく。

～中略～ (前回の新聞で記載した40項目です)

などなど、上げればきりが無いほどあるが、あらゆる事業が頓挫している事により多くの無駄な予算の支出をしているばかりではなく、4年連続で給与をあげており、その影響で予算が確保できないので市民サービスが低下している事は明確な事実である。

中でも、ごみ問題に対する対応は余りに酷すぎます。公務員が議会に対して嘘の答弁を繰り返し続けている事は許される事ではなく、松尾市長と関係職員の罪は大変重いと考える。名越焼却炉停止の2025年、この場にいる方は一体何人いるのでしょうか？ 自分がないから良いと言う無責任極まりない態度だと考えます。このままでは、街中にごみが溢れる状況も冗談ではなくなってくるのです。

頭をかかえる事態であるが、松尾市長の失政を隠す為とその場しのぎの言い逃ればかりして引き伸ばしているのが現状である。石破元幹事長のお言葉をお借りすると、松尾市長と公務員は助かるかも知れないが、市民は決して助からない、と言える。

市民の皆様の松尾市政に対する不信感は相当強いという事を認識すべきです。

この状況下で「NOと言えない議会」その代償は誰が払うのでしょうか？「財政が厳しい」「予算がない」との言葉を理事者側から何度聞いている事でしょうか、今、議会がNOと言えなければ、やってくる鎌倉市民の暮らしはどうなるか？ その答えはもう見えているのではないのでしょうか？

もう松尾市長の虚言に付き合うのはやめて議会として「NO」とはっきり言うべきである。

来年度の予算を見ても、頓挫している様々な課題・問題に対する希望が見えない状況であり、賛成などできるはずがありません。ここで予算を否決して市政運営を大きく見直す機会にするべきです。

▼「鎌倉市役所は頭の中がバブルのまま」これはわたくしが何度も申し上げている言葉であります、平成31年度予算はその言葉そのものの予算編成だと考えます。

バブル景気とは昭和の終わりから平成の始めにかけておりましたが、それから30年、今、平成が終わり、人口減少、超高齢化社会が訪れ、地球環境の悪化が懸念される中、目の前に「**大きな変革の時代**」が訪れているのに、考え方がついて行っていない状況です。これはバブル期に育った職員が幹部になり、その頃の影をいまだに追いつけて妄想を描いており、時代がその頃から止まったままだからではないでしょうか?村岡新駅や深沢地域整備事業、現在の2倍以上の面積の本庁舎を建設しようとしている事、旧図書館を4億円以上かけて修繕しようとしている事、千円の課金によるロードプライシング実施、などはその典型の提案と考えます。

正に「黄金の10年」に突き進もうとしており、将来の財政状況に大きな懸念を持ちます。

しかし、もっと重要な事は平成が終わり目の前に「**大きな変革の時代**」が訪れているのに、次世代の為に、未来を見据えた責任ある行政運営を構築しようとしているのでは無く、自分達が楽をして高い給与を確保しようとしているだけにしか市民からは見えないと言う事です。

では「**大きな変革の時代**」に向かい、今何をしなければいけないのか? SDGs 未来都市として鎌倉市が今何をすべきか? まずは目の前にぶら下がっている「**大きな変革の時代**」をきちんと理解して、分析して、行政運営はどうあるべきか考え、公務員の仕事をどう変えて行く必要があるのか、対応して行く事では無いでしょうか?

▼科学技術の発展により、人工知能(AI)の研究開発が加速しており、我々の暮らしは大きな変化が訪れようとしています。この変化は今まで我々が経験した事のない変化であり、第1次から第3次までの産業革命を遥かに超えるものになるのではないかと考えられています。

この第4次革命はデータ収集・解析技術などで、機械が自ら考えて動くようになるのです。

ここで、皆様は **2045年問題・シンギュラリティ**と呼ばれる現象が起きると言われている事をご存知でしょうか?このシンギュラリティは技術的特異点を意味する言葉で、コンピュータ技術や生命科学などの進歩、発展によって、2045年頃に技術的な特異点が生じ、「これまでの世界とはまったく異なる悲連続な世界かやってくる」と予測されているものです。

これは、人工知能の権威であるレイ・カーツワイル博士が提唱された「未来予測の概念」でもあります。博士は2045年には「人間の脳の限界を、人間と機械が統合された文明によって超越する瞬間がやってくる事」を言われており、この時期に人間の能力と社会が根底からくつがえり変容すると予想しています。

～中略～ (特化型AI・汎用型AI・深層学習等の解説)

冒頭に現状だけ見た時の予算案反対の理由を述べました。

勿論これらの視点は重要であります。しかし、もっと重要なのは、「平成が終わり**大きな変革の時代**が訪れているのに、SDGs 未来都市として、未来を見据えた行政運営を考えた予算措置が考えられていない」と言う事です。

今後は未来を見据えた長期ビジョンを持って鎌倉のまちづくりを考えて頂きたいと思います。

今のままのコントロール不能、危機感ゼロの鎌倉市役所の状態では、2045年、鎌倉市役所自体が存在できなくなるかもしれません。

松尾市長以下幹部職員の皆様はその時には鎌倉市役所にはいないから関係ない、そう言う空気しか残念ながら感じられません。

後輩達の為に、そして何よりも鎌倉の街の未来の為に、頭を切り替えて、真剣に考えて頂く事を強く要望して討論を終わります。